



東北森林管理局 森林技術センター

平成21年
夏 号

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町

大字中里字亀山540-8

TEL 0173-57-2001

FAX 0173-57-4929

E-mail: t_gijyutu@rinya.maff
.go.jp

東北森林管理局技術開発委員会委員による現地検討会

森林技術専門官

田畑 良輝

平成21年8月11日(火)、「ヒバの巣植えによるヒバ・広葉樹混交林施業の確立」試験地において東北森林管理局技術開発委員会の委員による現地検討会が行われました。

この試験地は、林野庁重点課題として平成17年度から取り組んできた課題で今年度が最終年となります。

当日は、東北森林管理局から計画部長、森林整備部長、外部委員の秋田県立大学教授の蒔田委員、森林総合研究所の杉田委員、青森県指導林家の工藤委員他16名の出席を頂き、今まで取り組んできた成果の概要説明、並びに今年度が取り組みの最終年度となっていることから、今後の取り扱い等について検討して頂きました。

委員の方々からは、「ヒバが被圧されており下刈り終了時までデータを取って判断すべき」、「巣と巣の間の刈り払いも必要なのでは」と意見を頂きました。下刈りなどの保育作業の必要性や作業方法の検討など、貴重な意見も頂きました。

今後、年末に開催される予定の技術開発委員会に向けて、取りまとめ並びに今後の方向性について検討していくこととしております。

※巣植え試験地とは

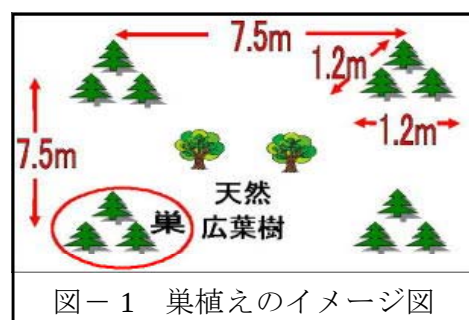
ヒバは群状に更新・発生しやすい、広葉樹と混交しやすいという特性があることから、図-1のように3本から5本とまとめて植栽し、植栽本数を削減し低コスト化を図ることを目的に設定された箇所です。



試験地において委員長の挨拶



林内での様子



東北森林管理局 平野計画部長来所

6月4日（木）、平野計画部長が森林技術センターに挨拶に見えられました。

センター職員を前に、森林技術センターの取り組みに対し感謝を申しあげると共に、最近の農林水産省改革のこと、綱紀の粛正を図ること、安全に留意し怪我のないよう作業を行うよう訓辞を頂きました。

平野部長は、北海道局管内で森林技術センター所長を務められた方です。体験談を元に、技術開発に取り組む姿勢を職員へご指導して頂きました。



事務室内で訓辞される平野部長

町内の方々に森林技術センターの取り組みを紹介



当日の様子

6月17日（水）に中泊町内に所在する関係行政機関の長の方々に、森林技術センターの取り組みをご説明する機会がありました。

小野町長はじめ、町の名士の方々に説明するのに大変緊張しています。ヒバに対する思いが強い方々であり説明に苦慮しました。

また、昨年発生した岩手・宮城内陸地震の被害状況と復旧状況を取りまとめた冊子を配布し、東北森林管理局の取り組みも併せてご紹介させていただきました。

青森ヒバの持続的な利用と供給に関する研究会

6月29日（月）に青森市内において、「青森ヒバの持続的な利用と供給に関する研究会」が開催され、当センターから所長が参加してきました。

この研究会は、今後供給に減少が見込まれる青森ヒバを持続的に行うために、試験地を設定し、資源量の確保を図るための調査を目的に、また、関係団体等との意見交換の場を設けるために設置されたものです。29日は設立総会、翌日には現地検討会が開催されました。あいにくの雨模様の中、関係者一同現地へ赴き、ヒバ林の現状をつぶさに観察しました。

参加者からは、今後も現地検討会等を通じて、交流を深めたいと述べられていました。



現地において説明を受けている参加者

安全大会の実施

本年度の安全週間を迎え、7月6日（月）に当センターの安全大会を開催しました。

所長あいさつの後、センターで募集した安全標語等の入選者の表彰等を行い、予定された行事を執り行いました。

その後、五所川原警察署による交通安全講話が実施されました。講習の中で、飲酒時の視覚の状況を再現するゴーグルを着用しての教習なども行われ大変参考になりました。

午後からは中里消防署によるAEDを使用した救命措置の講習を行いました。

心臓マッサージ、人工呼吸、AEDによる人工蘇生術。センター職員全員が汗だくになりながら、受講していました。

意識のない人が倒れていたら、直ちに人工呼吸を行うことにより、助かる確立が高くなることを身をもって学習しました。

五所川原警察署、中里消防署の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。



班長による安全宣言



人形を使用しての人工呼吸の実践とAEDの講習の様子



金木支署管内のクリーンアップ作戦に参加

6月18日（木）快晴の元、金木支署管内五月女菟国有林でクリーンアップ作戦が行われました。

当センターから所長以下3名が参加し、十三湖周辺の海岸林においてゴミ拾いを行いました。

海岸には、潮風と波による漂着物やゴミ袋ごと捨てられたと見られる空き缶など大量に発見されました。

約2時間かけて作業を行い、用意されたゴミ袋がなくなり終了となりました。

参加者からは、毎回参加しているがゴミが無くならないことが残念だとの声がありました。

今後も不法投棄の撲滅と普及啓発活動を通じて、ゴミの減量に努めていく気持ちを新たにしました。



海岸への入口に散乱するゴミを拾う参加者達



局幹部による安全指導

7月9日（木）、東北森林管理局難波職員厚生課長による安全指導が当センター会議室において行われました。

最近の当局管内の災害の発生状況や災害発生時の分析など指導を頂きました。

特に「周囲・足場・足元の安全確認の不十分」に起因する災害が連続している状況から、技術センターにおいても特に注意して作業するように話されました。

当センターにおいても、除伐作業等の事業を行っていることから、安全に留意し、健康管理に努めながら作業するよう誓いを新たにしました。

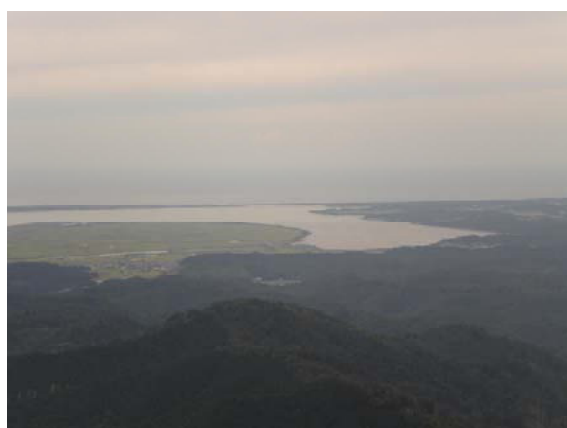


安全指導中の難波課長と鈴木安全衛生係員

中泊町町民登山の実施



足取りも軽やかに登山する参加者



遠くに十三湖が見えました。

9月12日に中泊町中央公民館主催による袴腰岳登山が行われました。この登山は毎年行われているもので、当センターからは森林インストラクター（兼道案内）として森林技術専門官が参加しました。

登山当日はあいにくの曇り空でしたが、町内外から26名の登山愛好者が参加、移動中のバスの中では登山話などの交換が盛んに行われていました。

ただ黙々と登る人、景色や野草を写真撮影しながら登る人達がそれぞれの登山スタイルで頂上を目指します。中程のブナ林で一休みし、ネマガリダケの猛烈な藪を泳ぐようにかき分けながら歩くこと約一時間、ようやく頂上が見えてきました。頂上には小さな祠が奉ってあり、十三湖や権現崎、隣の大倉岳、また微かでありましたが岩木山が望めとても絶景の場所でした。その風景を堪能しながら食べるお弁当もまた格別なものでした。

参加した皆さんはやはり登山愛好というだけあって帰りの足どりは軽く、「気持ちよかったね。」「綺麗だったね。また来ようね。」など和気あいあいと話を弾ませながら、それぞれの登山スタイルで下山して行きました。

私も、機会があればまた登ってみたいと思う有意義な一日でした。

編集後記

季節は秋に向かおうとしているのに夏号の発行。

頑張って、早めの発行に努めなければと、ひとり呟いております。今年は、梅雨明け宣言のない年でした。近年の異常気象の影響でしょうか。

センター職員は各種試験地へ出向き、調査結果の取りまとめに奮闘中です！